

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2391000201		
法人名	有限会社 あおば会		
事業所名	グループホーム一色 北		
所在地	愛知県名古屋市中川区下之一色町宮分147-1		
自己評価作成日	令和5年1月25日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 4 月 18 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和5年2月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様は大切なお客様であると同時に、職員も利用者様をケアする大切な存在と考えています。現在も介護業界は人手不足と言われるなか、職員が働き続けてもらえるような環境づくりが施設運営のために重要だと考えております。また昨年同様、新型コロナウイルスの感染予防を徹底しています。コロナ禍の中、利用者様お一人お一人に何が必要かを考えて、より質の高い介護を提供し、安心して過ごして頂けるように職員全員で支援しています。当施設の地域では高齢者で生活保護受給されている人の割合が多く、現在入居されている方の半数以上が生活保護受給されています。そういった方への入居にも対応でき、それに特化した運営を目指していきたいです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域柄、近隣住民との関わりが希薄であるが、町内会長や近隣クリニックや喫茶店等との関わりを深め、ホームの実情を周知し利用者が安心して生活できる環境に繋げている。今年度は近隣幼稚園と協働し、災害時の避難経路を確認できた。また入居案内等のホームパンフレットを、複数の医療機関や介護支援事業所にFAX送付し、周知活動を行った。一般からの問い合わせの反響があり、その都度相談者の話を傾聴し適切なアドバイスを行った。高齢者介護、認知症専門事業所としての知識を活かし住民の力となり、結果として地域貢献に繋げる事ができた。管理者は身体拘束をしない介護、誰にでも優しく接する介護を念頭に置き、利用者が安心して生活を送れる様に職員全体に意識付けをしている。ホームの夏祭りやクリスマス会等のイベントを継続する事で、利用者の楽しみやコロナ禍でのストレス解消、職員のやりがいにも繋げている。人材不足の問題が解消し、より一層質の高い介護を提供する事が期待される。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は、玄関や事務所の誰もが目にしやすい場所に掲示し、意識するようにしている。理念に基づいた支援や介護が行われているかを日々の申し送りでも共有できているか確認し、実践している。	理念は各ユニットの入り口の目につく所に掲示し、全体会議で振り返りをして職員への意識統一を図っている。職員は「家庭的で自立した生活」に向け、利用者其々の生活歴や性格、心身状態に合わせた支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス感染予防で地域の行事に参加できないこともあり、また散歩など行えないことがあったが、施設内のお庭、スロープの散策の際に地域の方と挨拶を交わしている。	地域柄近隣住民との密接な付き合いはないが、診療所、耳鼻科等のクリニックや隣接する喫茶店とは馴染みの関係が築かれている。利用者が離脱した際には、喫茶店店主の協力があり、無事帰設する事ができた。ホームが地域の一員として認知されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方、学区の小中学校との交流を通じて、認知症及びグループホームへの理解を深めてもらう様に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、運営推進会議を行い、そこでの報告、内容、意見等は議事録として残し、職員への周知、サービス向上に活かしている。また玄関に議事録を置き第三者が閲覧できるようにしている。	推進会は書面での開催となったが、町内会長は会議参加の協力が得られている。事業報告を主に意見交換をして活動内容を周知し、地域や高齢者介護等の意見交換の場となり協力関係を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護者の受け入れを行い、区役所や支所の担当者と相談を含め連絡をとっており、施設での状況やケアサービスの取り組みを伝え、アドバイスを頂く等協力関係を築く様に取り組んでいます。	区担当窓口には、介護保険更新手続き等で直接出向いたり、必要時には電話やメールで相談している。生活保護課の担当職員は頻回に連絡し、利用者の生活状況周知し協働関係を深めている。研修の案内が定期的に届き、今後の参加を検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、玄関ドアの施錠はおこなっているが、管理者及び職員一同で拘束しないケアに取り組んでいる。	毎月の全体会議で議題に挙げて職員への周知、認識を高めている。言葉使い、ベッド柵の使用方法等具体的な例を挙げ意識付けをして、身体行為のない支援に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々申し送りの際、虐待につながるケアをていないか、確認している。上から目線の声かけや威圧的な態度にならないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、一部の職員については、市町村との協力関係において関係者と話し合い学ぶ機会はあるが全職員が支援できる状況には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際には、契約書、重要事項証明書、同意書などご本人様、ご家族様に説明し、ご理解とご納得を頂いた上で、ご署名、ご捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の意見、要望については、来所時や電話・メール・手紙でお聞きし、利用者様については、日常生活における気づきやコミュニケーションにて、支援させて頂く様に心掛けている。	家族とは何かあれば直ぐに電話やメールで連絡をして、近況報告をしている。イベントや日常の様子の写真は、家族から欲しいと依頼があればその都度対応している。利用者の要望は日常の関わりから引き出し、昔なつかしいTVドラマをSNSを活用して観る機会を作り、利用者の個別の要望も叶えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの時やミーティングなどで常勤、非常勤に関係なく全員が意見や提案しやすい環境作りに心掛けている。提案、意見等で出来ることはやってみることを実践している。	現在職員不足という状況だが、なるべく希望休を反映する様に努めている。イベントやおやつレク等での職員の意見や要望は可能な限り実践に移し、職員のやりがいに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの意見、提案等は、管理者より代表者に伝え、向上心を持って働ける様に職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量、意見、意思を考慮しながら、無料のものが優先だが研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防で交流することは出来なかったが、緩和された際は交流できる機会を設けたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員の気づきをふまえ、利用者様ご本人の要望に耳を傾け、困っている事や不安を取り除く様、全体会議、担当者会議において話し合い、職員全員同じ理解のもと、本人との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が来所された際などに、要望も聞きながらケアプランを作成し、担当職員が率先して会話がしやすい環境、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者ご本人と家族の要望、希望をふまえたサービスを全体会議や担当者会議にて話し合い、必要としている支援を優先順位を付け、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者の人間性を尊重し、性格、出来る事を把握した上で、各利用者出来る事(食器拭き、洗濯たたみ、掃除等)と一緒にしてもらい、利用者との関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しては面会時や手紙で利用者の報告を行っている。新型コロナウイルスの影響で面会中止の時期は、電話にて報告もしている。情報を共有し、本人を支えていく関係を築いている。基本、面会時間は設定せず、夜遅くしか来れないご家族にも対応して		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様によるが、馴染みの人や場所との関係が築けていない方もいるので、出来る限り馴染みの人、場所の関係が途切れない様、コロナ後もみすえご家族に相談し支援に努めている。	コロナ感染対策上、馴染みの場への外出は出来ていない。家族面会の実現や、電話の取次ぎ、年賀状のやりとり等は継続的に支援ができています。新聞を読む、塗り絵等の制作を行う等、入居前からの趣味事が継続できる様に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者の性格を把握し、利用者同士の関係が築ける様、家事や行事のレク、を一緒に行い、支えあえる様な支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くの施設へ移られた方には時々挨拶にうかがったりしています。年賀状をだすことも行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者本人の思いや希望、意向の把握に努めているが、困難な場合は、家族の希望、意向も把握し、全体会議、担当者会議において話し合い検討している。	職員は日常の関わりの中で利用者の思いや希望の汲み取りに努めている。意志疎通が困難な場合は食事介助の声掛け時に反応や表情、顔つきから察知し、職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の情報を、各職員が確認できるようにファイリングしている。それ以外でも全体会議、担当者会議にて決定した内容を、議事録を作成し、全職員で共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、ケース記録、業務日誌への記入を行うと同時に、申し送りを朝、夕で行い、体調面については協力医の相談のもと、現状の把握に努めている。受診の際ご家族が対応できない時は、職員が受診付添している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議、担当者会議、申し送りにて各職員の意見やアイデアを反映し、3か月ごとの見直し、半年ごとの立て直しを行い、介護計画を作成している。又、状況に応じてプランを見直している。	ユニットごとに職員が利用者全員の計画作成に関わっている。会議での意見やモニタリングの結果等を踏まえて計画を立案し、家族には面会時や郵送で承認を得ている。定期的な見直し以外に体調等変化があれば都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、業務日誌に記入し、全体会議、申し送り、カンファレンスにて情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。又連絡ノートを使用し、全職員に周知できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意見や希望含め、その時々生まれるニーズに対応する様、各職員の意見や情報を全職員で共有しながら、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園、小・中学校での行事運動会、敬老会への参加、また施設の行事への参加(体験実習)を通じ、豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人または家族同意の上、かかりつけ医と365日24時間体制にて対応している。また、本人、家族の希望があった際は、精神科・眼科など協力医以外の医療機関への受診も支援している。	月2回の往診やインフルエンザやコロナ感染症予防ワクチン接種を事業所内でかかりつけ医から受けている。整形外科や皮膚科等受診希望があれば支援をしている。隔週毎に訪問看護、月1回訪問歯科の往診、毎週口腔衛生士の訪問を受け健康維持に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員より申し送られた各利用者の情報や気づきを、管理者が訪問看護師に相談し、状況に合わせ適切な受診を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは介護サマリー、看護サマリーを使用し情報交換、相談を行うなどし、また定期的に病院での交流会や医療相談員へ挨拶へ伺い、情報交換など行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、「重度化した場合における対応にかかる指針」に同意を得て、その都度医師、看護師の支援の下、本人、家族と話し合いを行い、施設にて出来る事を説明し、地域の関係者と共に支援に取り組んでいる。	事業所の方針をまず説明し、状態変化毎に主治医や家族、事業所と話し合いを重ね、希望すれば看取りも可能であることを伝え支援している。状況に応じて訪問看護より医療面や対応方法のアドバイスをもらい連携を図りながら事業所が一丸となって取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師、看護師より応急手当の方法や処置方法を聞き、全職員に伝え、実践出来る部分では実践し、急変、事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災以外の津波や洪水を想定した水害時の訓練や勉強会を行っている。近隣の保育園とも災害時の避難経路を確認しました。	水害時想定訓練に向けて対応を考える勉強会を開催したが、訓練実施には至らなかった。町内会長とは災害時対応について話し合い協働関係を構築している。1週間分の食糧や水、衛生用品等を備蓄している。	年2回、想定を変えた防災訓練を実施し、机上の勉強会ではわからなかった問題点の把握や更なる防災意識向上への取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りや全体会議にて話し合いを行い、各利用者の対応について共通の理解の元、各利用者の性格、生活歴を把握しながら、会話の内容、声掛けに注意し対応している。個人情報テーマとした勉強会も行っている。	トイレ誘導や介助時には羞恥心やプライバシーに配慮した対応を心がけている。本人の希望があれば居室の施錠や下の名前に「さん付け」で声掛けし、人格を尊重し目上の人として敬う気持ちを基本に不快な気分させないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から、職員、利用者間でのコミュニケーションをはかり、性格面を把握した上で、本人の思いや希望を表して頂ける状況を作り、自己決定できる方には自己決定出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況、安全面を考え、職員の判断を優先する場合もあるが、各利用者のペースを大切に、希望にそった支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭髪、爪、ひげ等身だしなみは毎日の習慣として、また気持ちよく1日を過ごして頂く為、各利用者様の状況に見あった対応をさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全体会議、カンファレンスにて一人ひとりの好み、嚥下、咀嚼を考慮しながら、食事内容を検討し、野菜切り、テーブル拭き、下膳等それぞれ出来る方を中心に一緒に行っている。時々、職員による手作りおやつを提供している	配食サービスを利用し、ご飯や汁物を手作りしている。下膳やテーブル拭き、食器洗いや拭きを手伝う利用者もあり、食事形態は刻みやミキサー、ムース等個々の状態に応じて対応している。夏祭りやクリスマス等には手作りの食事やケーキで季節感を味わえるよう、またお正月には試作を重ねた伸びない餅を提供し食事が楽しみとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェック表に記入し、食事量を把握した上で、状況により栄養補給をして頂くなどし、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に4回歯科衛生士、歯科医が利用者の口腔ケア、及び治療を行っている。毎食後口腔ケアを職員見守りにて行い、口腔状態を確認、把握し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄間隔、習慣を職員全員で把握し、トイレ誘導、見守り、声掛け、介助にて一人ひとりに合わせた対応にて支援を行っている。また、自己にて出来る方には着脱も自己にて行ってもらっている。	排泄チェック表で個々のリズムを把握し、声掛けや誘導、見守りで日中はできる限りトイレでの排泄に向け支援している。夜間は睡眠を重視し、一人ひとりのリズムや習慣にあわせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記録を残し、食事量、水分量を把握した上で、協力医と相談を行い、指示のもと水分摂取、運動、薬等、個々に応じた形で便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には順番に入浴して頂いておりますが、入浴希望がある利用者には希望に沿った形で入浴して頂いている。拒否のあるかたも一部いるため、入って頂けるよう工夫している。車いすの方には、リフト浴にてお湯に入ってもらえるようにしている。	週2回の入浴で現在拒否される方はいない。しょうぶ湯やゆず湯等で季節感を味わったり、寒暖差によるヒートショック予防対策を行い、入浴が楽しみとなるよう取り組んでいる。車椅子の方はリフト浴で対応し、シャンプー等は備えつけだが希望があれば応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドだけでなく、居室の床に布団を敷くまたは畳の和室に布団を敷くなど、生活習慣やその時々状況に応じて、気持ちよく眠れる様な支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者のお薬説明書をファイリングし、職員がいつでも確認できる状況を作っている。処方内容の変更がある度に、連絡ノートを活用し、職員へ周知、常に状態の変化には気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の趣味、生活歴、力を活かし、地域の行事、散歩、ぬり絵、漢字ドリル、計算問題、歌唱、体操等気分転換してもらえる様支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染予防の為、出来ていないが、基本的には本人の希望を把握し、職員と一緒に出かける時もある。また、家族に協力して頂き対応している利用者もいるが、体調面、安全面を考慮した場合、一人ひとりの希望にそえない時もある。	新型コロナウイルス感染症予防対策で近隣の散歩はできず、状況を見て職員とドラッグストアへおやつや買い物に出かける方もいる。中庭での外気浴や降雪時には玄関で雪を眺めて気分転換を図っている。春は事業所より徒歩圏内の大きな桜の木を見てお花見をした。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必ずしも一人ひとりがお金を所持したり、本人の希望にそえる事が出来るわけではないが、家族様と相談しながら状況に応じ対応できる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があり、ご家族様と電話でお話しされる方やご家族様から利用者様ご本人と電話でお話しされる方がみえます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しでも四季を感じて頂く様に、行事・作品作りにて手作りで作った季節感の感じる事が出来る貼り絵を壁に貼ったり、室内温度の設定、ラジオ・CD・DVD・TVなどをつける事で心地よく過ごせる様な工夫をしている。	リビングの壁には季節ごとに飾りつけをし、利用者が作成した塗り絵やスクラッチアート、写真等も飾っている。南北のユニットは行き来することができるが今はユニット内歩行にとどまっている。利用者間の相性を見ながらテーブル配置を変えたり、温度管理や換気を行い居心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	南北ホールの行き来、ソファ、和室の活用、庭いじり、ホール内の散歩、自室にて過ごしてもらおう等、個々の利用者の思いで過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望、家族と相談しながら、思い入れのあるもの、馴染みのもの、落ち着いたものがあれば持参してもらい、居心地良く過ごせる工夫をしている。	居室はエアコン、ロッカー、ベッドが備え付けられ、利用者のなじみのものや行事の写真を飾ってそれぞれが落ち着いて過ごせる空間となっている。温度管理や換気、掃除は職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止など安全面に考慮しながら、一人ひとりが出来る事を職員の見守り、声掛け、介助のもと、自立した生活が送れる様に工夫している。(食器洗い・洗濯物たたみ・洗濯物干し・掃除等)		